

「ひと目でわかる Visual Basic 2013/2012 データベース開発入門」

本書のサンプルファイルの使い方

■ サンプルファイルのプログラムを動作させるためには、以下の環境が必要です。

これ以外の環境下で動作させる場合は自己責任でご使用ください。

- ・ ハードディスクの空き領域 100MB 以上
- ・ オペレーティングシステム（以下のいずれか）

Microsoft Windows 7

Microsoft Windows 8

Microsoft Windows 8.1

- ・ 開発環境（以下のいずれか）

Microsoft Visual Studio 2013（すべてのエディションに対応）

Microsoft Visual Studio 2012（すべてのエディションに対応）

Microsoft Visual Studio Express 2013 for Windows Desktop

Microsoft Visual Studio Express 2012 for Windows Desktop

- ・ データベース管理システム

SQL Server 2012（すべてのエディションに対応）

■ サンプルファイルには、オペレーティングシステムや Microsoft Visual Studio 2013/2012、Microsoft Visual Studio Express 2013/2012 for Windows Desktop、SQL Server 2012 Express、SQL Server 2012 は付属していません。

サンプルファイルの内容

本書のサンプルファイルには、各章で使用するファイル、各章の手順で完成したファイル、完成版のシステム、サンプルデータベース作成用の SQL ファイルなどが含まれています。

サンプルファイルには、以下のフォルダーが含まれています。それぞれのファイルの使用方法については、各章の説明をお読みください。

● [SQL] フォルダー

サンプルデータベースを作成するための SQL ファイル

● [Chapter07] ～ [Chapter15] フォルダー

第 7 章～第 15 章の学習に利用するプロジェクト

● [Chapter06 完成] ～ [Chapter14 完成] フォルダー

第 6 章～第 14 章で完成したプロジェクト

● [完成版] フォルダー

完成版のプロジェクト管理システム

サンプルファイルのインストール方法

本書のサンプルファイルは、学習で使用するコンピューターのハードディスクの任意の場所にコピーしてからご利用ください。以下の手順でコピーすることができます（Windows 8.1 の場合）。

- ① ダウンロードしたサンプルファイルを右クリックして、ショートカットメニューの「すべて展開」をクリックする。
- ② 「圧縮（ZIP 形式）フォルダーの展開」ダイアログボックスの「ファイルを下のフォルダーに展開する」ボックスで、ファイルを展開する場所を指定する。本書の手順通りに操作する場合には、[C:\VB2013DB] フォルダーに展開する。
展開する場所は、「参照」をクリックして「展開先を選んでください。」ダイアログボックスで指定することもできる。
- ③ 「展開」をクリックすると、指定したフォルダーにファイルが展開される。
- ④ 「VB2013DB」フォルダーが作成され、前頁の「サンプルファイルの内容」に記載されているフォルダーおよびファイルが作成されていることを確認する。

サンプルファイルの使い方

本書のサンプルファイルのプロジェクトは、ハードディスクの任意の場所にコピーしただけでは使用することができません。これらのプロジェクトを使用するためには、あらかじめ project_job データベースを準備する必要があります。project_job データベースの準備については、第 4 章の「5 サンプルデータベースを準備する」を参照してください。

また、プロジェクトの設定情報で、データベースの接続先を設定する必要があります。以下の手順で接続先を変更してください。

なお、それぞれのプロジェクトには、データベースとの接続に SQL Server 2012 Express の既定のインスタンスである「(local) \SQLEXPRESS」が設定してあります。SQL Server 2012 Express を使用して、既定のインスタンスに project_job データベースを作成した場合には、以下の操作は必要ありません。

- ① Visual Studio 2013/2012 または Visual Studio Express 2013/2012 for Windows Desktop を起動し、「ファイル」メニューの「プロジェクトを開く」をクリックして、本書のサンプルファイルの各フォルダー（「Chapter06 完成」など）に含まれているソリューションファイル（「ProjectManagement.sln」や「ProjectCh07.sln」など）を開く。
- ② ソリューションエクスプローラーで「ProjectManagement」を選択して、「プロジェクト」メニューの「ProjectManagement のプロパティ」をクリックする。
- ③ 「ProjectManagement」のプロパティページの「設定」タブをクリックする。
→アプリケーション設定がグリッドに表示される。このプロジェクトでは、データベースとの接続文字列だけが登録されている。
- ④ 先頭行（「project_jobConnectionString」）の「値」列にカーソルを移動して、右端に表示される「...」をクリックする。
- ⑤ 「データソースの選択」ダイアログボックスが表示された場合には、「Microsoft SQL Server」を選

択して、[続行] をクリックする。

- ⑥ [接続のプロパティ] ダイアログボックスで [サーバー名] ボックスに、(local)¥**インスタンス名** (または **コンピューター名¥インスタンス名**) と入力する。
- ⑦ サーバーへのログオン方法を設定して、[OK] をクリックする。
- ⑧ [ファイル] メニューの [すべてを保存] をクリックして、プロジェクト全体を保存する。

※ [データソースの選択] ダイアログボックスや [接続のプロパティ] ダイアログボックスの設定内容については、第 6 章の「3 データ接続とデータソースを設定する」を参照してください。なお、[接続のプロパティ] ダイアログボックスの内容は、[接続の追加] ダイアログボックスと同じです。

Windows 7 で学習する場合の注意事項

本書では Windows 8.1 による操作方法および操作画面を記載していますが、Windows 7 でも学習して頂くことができます。Windows 7 をお使いの場合には、以下のように操作してください。なお、他のページにおいても、「[アプリ] ビュー」と記載されている箇所は「[スタート] メニュー」と読み換えてください。

第 4 章「1 SQL Server の動作状況を確認する」

P. 54 「SQL Server 2012 の動作状況の確認」の手順

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [Microsoft SQL Server 2012] — [構成ツール] — [SQL Server 構成マネージャー] をクリックする。

第 4 章「2 データベースを作成する」

P. 56 「SQL Server Management Studio の起動」の手順

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [Microsoft SQL Server 2012] — [SQL Server Management Studio] をクリックする。

第 6 章「1 Visual Studio 2013/2012 を起動する」

P. 90 「Visual Studio 2013/2012 の起動と環境設定」の手順

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] — [Visual Studio 2013] — [Visual Studio 2013] をクリックする。

(Express の場合)

[すべてのプログラム] — [Visual Studio 2013] — [VS Express 2013 for Desktop] をクリックする。

※バージョン 2012 を使用している場合には、同様に操作してください。

お問い合わせの前に

本書の手順通りに操作しても、実行時（ビルド時）にエラーが発生する場合や、作成したプログラムがうまく動作しない場合には、お問い合わせの前に、以下の内容についてご確認をお願いします。

①ご利用の環境（OS や開発環境、SQL Server）がこの PDF ファイルに記載されているものとなっているか。

②必要な開発環境および SQL Server が正しくインストールされているか。

③SQL Server に project_job データベースが作成されているか。

※データベースが作成されていない場合には、第 4 章の「5 サンプルデータベースを準備する」をご参照の上、project_job データベースを準備してください。

実行時（ビルド時）にエラーが発生した場合、ご自身で作成しているプログラムの章のサンプルファイルの完成プログラムを開き、ビルドを行います（例えば 6 章を学習している場合、[Chapter06 完成] フォルダ）。ビルドを行う際には、この PDF ファイルの「サンプルファイルの使い方」を参照して、必ずデータベースの接続設定を確認してください。

サンプルファイルでエラーが発生しない場合は、上記の①～③は正常に動作および作成されていることになり、作成したプログラムの各コントロールのプロパティ設定や記述したコードに誤りのある可能性がありますので、以下の点に留意して各コントロールのプロパティ設定と記述したコードを比較してください。

●本書の手順通りに、フォームやコントロールの名前を設定しているか。各コントロールのプロパティ設定に漏れはないか。

●コードを記述したプロシージャ名（「rdbMale_CheckedChanged」など）が、書籍の通りになっているか。

なお、サンプルファイルが動作しない場合には、上記の①～③とデータベース接続設定について、再度ご確認ください。